

# 経営比較分析表／団体全体（令和2年度決算）

茨城県 笠間市

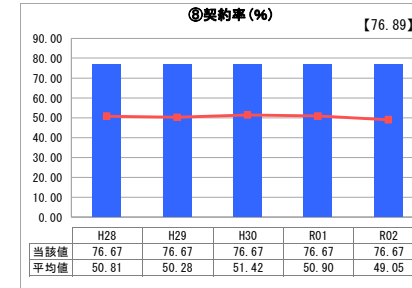
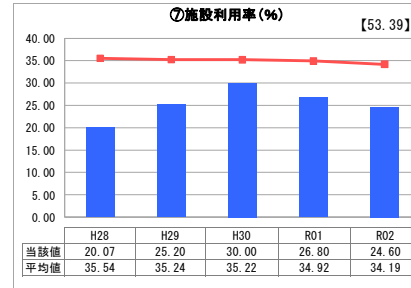
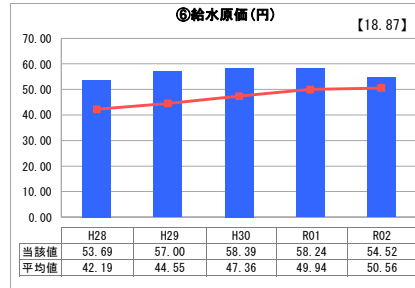
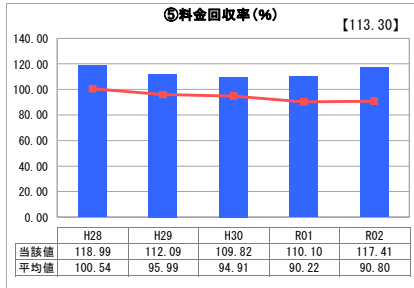
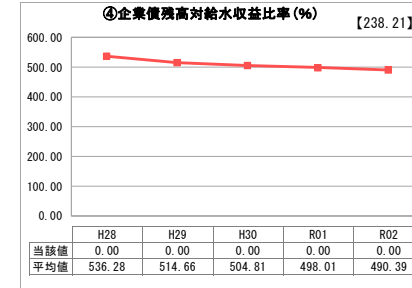
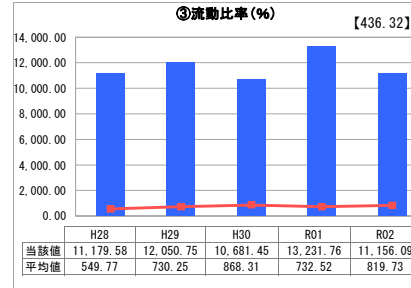
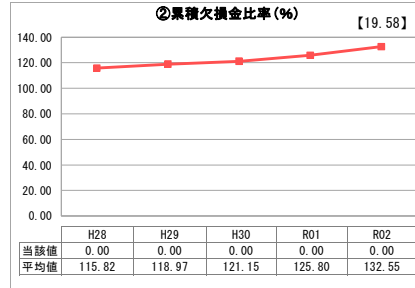
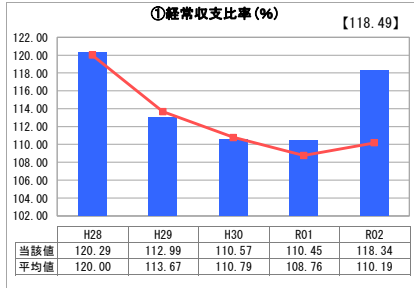
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m <sup>3</sup> /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m <sup>3</sup> )
法適用	工業用水道事業	1,500	極小規模	1	369
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m <sup>3</sup> /日)	管理者の情報	
-	99.4	3	1,150	非設置	

## グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%以上を保っており健全である。今年度は経常費用が減少したことにより、数値が増加した。今後は、老朽化してくる施設の修繕等で経常費用が増加する可能性があるため、計画的に修繕を行っていくことで、費用を平準化していくことが必要となる。

② 流動比率は、類似団体と比較しても高く、短期債務に対する十分な支払能力がある。

③ 料金回収率は、100%以上となっており、給水収益で必要な経費を賄えている状況になっている。今後も100%以上を維持するために、経常費用の削減に努める。

④ 給水原価は、対前年度比ではほぼ同水準であるが長期的には上昇傾向にある。また、類似団体と比較しても高いため、修繕費等維持管理にかかる費用の適正化に努める。

⑤ 施設利用率は、類似団体と比較すると低いため、施設の更新の際には、最大稼働率や負荷率等も含めて適正な規模となるように検討する。

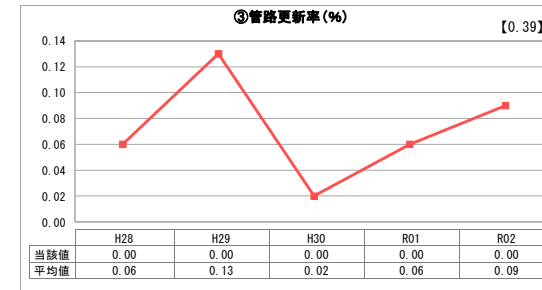
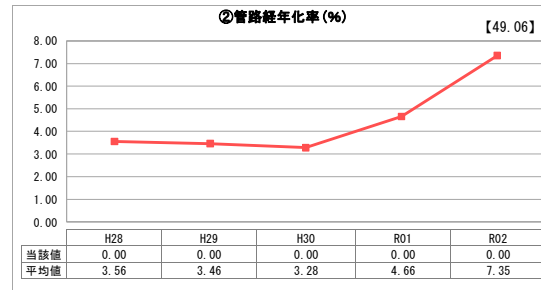
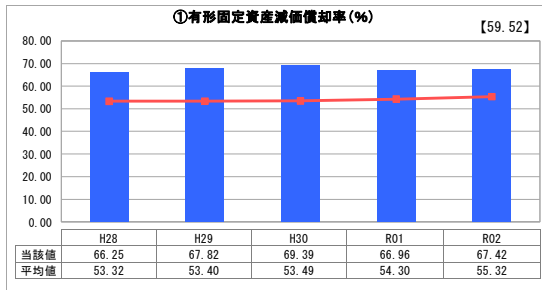
⑥ 契約率は、類似団体と比較しても高くなっているが、今後は給水先業者に契約水量の増加を働きかけて、契約率を増加させるよう努める。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較しても高い数値となっており、また更新を迎える施設や設備が多くなっていることから、アセットマネジメントの手法を取り入れる等計画的に更新を進める必要がある。

② 管路経年化率は、現在では法定耐用年数を迎えている管路がないため、0.00%となっているが、将来的には更新の必要性があるので、管路以外の施設も含め計画的に更新を進めることにより、費用を平準化し安定した経営に努める。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

経常収支比率や、料金回収率は100%以上になっており、流動比率も高いことから現状では安定した経営ができている。

さらに安定した経営ができるよう、費用の削減に努めるとともに、給水先業者に契約水量を増加させるよう働きかけを行う。

今後は施設や管路が法定耐用年数を迎えることにより、多くの更新費用が必要となってくるため、アセットマネジメントの手法を取り入れ、老朽化の度合い等により、優先順位を検討することにより、年度ごとの費用が偏らないよう更新の計画を行う。